

学校再編に関する地域説明懇談会 会議録

1. 日 時 令和6年2月3日（土）午後7時から午後8時45分まで

2. 会 場 佐見ふれあいセンター

3. 参加者 別紙名簿のとおり 9名
町教育委員会：鈴木教育長、大岩課長、玉置

4. 資料等 別紙のとおり

5. 記 録

（1）開会あいさつ 大岩課長

（2）資料説明 鈴木教育長（19:02～）

（3）質疑・意見等

○60代 男性

- ・佐見地区に移住してくる人は、学校の規模に関係なく佐見地区に小学校があるから、住みたいと考える人が多い。3小1中体制が少しでも長く続けばよいと考えている。

○鈴木教育長

- ・これからますます佐見地区の子どもが減り、クラス数が減少すると、配当される先生の数が減ってしまうという課題があるが、たとえ児童数が10人ぐらいに減ったとしても、佐見地区に小学校を残したいと考えている。保護者の中には、「このように人数が少なくなっているのなら他の小学校と統合したらどうか」という意見も出ているが、現段階では急いで統合する必要はないと考えている。

しかし、見込み以上に児童数が減ってしまう場合のことも考え、心づもりだけはしておきたいが、現時点では、地域の応援をいただきながら3小1中体制を維持していきたいと考えている。

○40代 男性

- ・小学校3年生の娘が佐見小学校に通っている。とても雰囲気のよい学校だと思う。子どもたちが喜んで学校生活を送ることができるよう、地域ぐるみでの協力は惜しまないつもりだ。学校立ち行かなくならないように、いろんな方策を打っていただきたい。

○鈴木教育長

- ・八百津の潮見小学校は、2学級となり教頭もない状況となった翌年、八百津小学校と統合した。先ほど説明したように、令和11年度に、佐見小学校は2学級だけになってしまう可能性がある。佐見小学校が潮見小学校と同じ道をたどらないように願っている。児童数がいっそう減っても、存続していくことは可能だが、できることが狭まっていくのは事実だ。令和11年ごろに佐見小学校に通うことになる子どもたちの保護者とよく話し合っていきたい。

○60代 男性

- ・令和11年度、12年度の学年ごとの児童数見込みで、0人を見込んでいる学年に1人でも児童が入れば、2学級は解消されるのか。

R11		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
	男	0	0	1	0	1	1	3
	女	0	2	1	0	2	1	6
	計	0	2	2	0	3	2	9

○鈴木教育長

- ・そのとおりである。2学級になると教頭が配置されなくなる。国で定められたことなので、いかんともしがたいこ

R12		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
	男	1	0	0	1	0	1	3
	女	0	0	2	1	0	2	5
	計	1	0	2	2	0	3	8

未定

とである。0人のクラスが2学年になるのを回避できれば、今と同様、3学級となり教頭も配置されることになる。

令和3年当時と現時点での児童数の見込みを比較すると、佐見地区では、令和3年度段階で生まれていた子どもたちは、町外に転出せずとどまっているが、他地区では、かなりの子どもたちが転出してしまったケースがある。それぞれの家庭の事情があって転出・転入されていることから、デリケートな問題であり、言葉に気を付けないといけないが、少しでも町内に転入してくだされれば、とてもうれしく思う。

○60代 男性

- ・校長先生が、地域との交流に熱心に取り組んでいただき感謝している。児童数が減っても、いっそう地域ぐるみで佐見小学校を盛り上げようという心構えが大切だと考えている。

小学校はなんとか地域に残して、3小1中体制が継続していくことを願っているの、移住してくる方が子どもを連れてきてくださるとありがたい。

○鈴木教育長

- ・安江さんには、社会教育の活性化のために、ご尽力をいただき、感謝している。人数が減っても、地域で小学校を盛り上げていただきたいと思う。

町内における児童数の減少は近年著しく、今年度の出生見込みは町全体で9人となっ

ている。しかし、なんとか3小1中の体制をできる限り維持したい。中学生は、できるだけ大きな規模の集団で学ばせたいが、小学生の低中学年の間は、長時間のバス通学するのは好ましくないと考え、小学校は佐見と黒川に残し、地域で育ててやりたい。

○50代 男性

- ・通学時間については、年齢により（発達段階により）、「最長何分までにする」などと、国の法令で定められているのか。

○鈴木教育長

- ・法令で定められているわけでないが、目安としては1時間以内が望ましいとされている。少子化により学校統合が進むなか、「児童生徒が、どのくらいの時間をかけて通学しているのか」について、国が調査したところ、8～9割が1時間以内に収まっていたという報告がある。もちろん1時間を超えて、通学している児童生徒も、他の市町村等に実際におり、1時間を超えてはいけないということではない。

○60代 男性

- ・長時間乗車すると、寝てしまう子も多いのではないかな。

○鈴木教育長

- ・白川中の校長をやっていたときも、切井方面からスクールバスに乗ってきた生徒のなかには、いかにも寝ていたという感じの子がいた。朝起きたものの、乗車中に寝てしまうと、脳が不活性な状態になってしまうので、下車後には軽い運動などをして脳を活性化（賦活化）するような対策を行うことも大切だと考えている。

○70代 男性

- ・自治協議会長として、学校運営協議会に携わり、佐見中学校がなくなり、小学校だけとなった地域を盛りあげていくため、学校や地域と手を携えながら、様々な取り組みを行っていくことが大切だと考えている。

移住してきた人の中には、佐見地区の自然にあこがれ、有機農業に取り組もうとする人も多いと聞く。こうした人を少しでも増やすために、町と協力し合いながら取り組んでいきたいと考えている。

○鈴木教育長

- ・さきほど、「教育移住」を推進できればと申し上げたが、この佐見地域で、皆さん方の協力でもって佐見小学校の教育活動をいっそう充実させ、移住希望者が「佐見で子どもの教育を受けさせたい」と、移住先を佐見地区に選んでいただけるようになればと願っている。

※昨年度、学校統合後の白川中生徒に対して行ったアンケートの集計結果を解説。佐見中学

校がなくなって寂しくはなったが、「統合してよかった」と答えている生徒が多く、白川中学校で元気に活躍していることを説明。

○60代 男性

- ・佐見地区の中学生のために、河岐のあたりに寮をつくったらどうか。

○鈴村教育長

- ・愛知県の村（豊根村）に、（全国的にも珍しい）全寮制の中学校があったが、最近（令和2年3月）寮を廃止してしまった。やはり全寮制というのは課題も多いようだ。

○70代 男性

- ・地域の人たちの意見を聴きながら、ていねいに合意形成を図ってくださり感謝申し上げます。これから移住をしてくる人のためにも、小学校と保育園は残していただきたい。

建設が予定されている施設一体型小・中学校について、図書館を併設するという話を聞いたが、その点についてお聞きしたい。

○鈴村教育長

- ・基本的には、佐見地域と黒川地域には小学校を残し、3小1中体制を維持していきたいと考えているが、今年度のように、町全体での出生数が9人となるなど、少子化がいつそう進むことも踏まえ、慎重に検討していきたい。

町立図書館「楽集館」の併設については、決まっているわけでない。将来を見据え、楽集館の併設も、1選択肢として考えていく必要はある。

○70代 男性

- ・施設一体型ということだが、ほかの施設の併設については考えているのか。

○鈴村教育長

- ・施設一体型小・中学校というのは、小学校の施設と、中学校の施設が一体となった校舎を指す言葉であり、学校以外の施設と一体になった複合施設ということではないので、ご理解いただきたい。ただ、この施設一体型小・中学校が完成すると、数年でクラス数が減ってしまうので、余剰となった部屋や空間を有効に活用するため、将来的な楽集館の併設も考えていきたいということである。しかし、限られた敷地に、必要最小限の規模の校舎を建設しようとしているため、そのほかの施設を併設することはとうてい無理である。例えば、当初は給食センターも併設できないか考えていたが、敷地の余裕はないうえに、近年、給食センターの機械設備を更新していることから、同センターは併設しないことにした。

○50代 男性

- ・白川中学校と佐見中学校の統合後のアンケート結果の説明を聞いて。「友達が増えた」「学校行事が充実した」「スポーツ活動が充実した」など、統合してよかったという声が多かったことにほっとした。佐見小学校の児童たちも、とても元気に頑張っていて、私たちも喜ばしく思っている。地域の声を聴きながら、そのような教育環境をつくっていただいている教育委員会に感謝している。しかし、説明にあったように、これから少子化がいつそう進んでいくと、どうなってしまうか心配である。そのときの保護者の考えを聴いていただきながら、教育委員会でもっとも望ましい判断をしていただけるものだと思っている。

○鈴木教育長

- ・みなさん方から貴重なご意見や提案をいただくことで、私たちも新たな考えをまとめることができる。こちらこそ感謝申しあげたい。児童数が減る中でも、工夫して学校を盛り上げていきたい。しかし、いつそう少子化が進み、保護者の側から「もうだめだ」といった声が出てくるのを恐れている。なんとか、そうならないように、皆様方のお力添えでもって、佐見小学校を盛り上げていきたいと考えているので、今後ともご協力をたまわりたい。

○50代 男性

- ・佐見地区に住んでいる私たちは、小学校が地域に残ってほしいと願っている。しかし、およそ7年後、佐見小学校の児童数の見込みは、現在の3分の1ほどになってしまうという現実がある。見込みどおりの減少となってしまった場合は、その時点での保護者や子どもたちの意見を尊重していただきたい。将来の保護者が「もう少し大勢の友だちの中で学ばせたい」と思うようになれば、私としてもそういう意見は尊重したいと思うし、そういった保護者の思いを地域で応援すべきだと考えている。今後、教育委員会や地域の人たちといっしょに佐見小学校を支えていきたい。

○鈴木教育長

- ・難しい問題だが、佐見地区の皆さんといっしょに考えていきたい。

○60代 男性

- ・移住希望の問い合わせは多いが、別荘を含めた実際の空き家の数に比べて、空き家バンクに登録している数が少なく、実際の移住につながらないケースもある。私としては、これからの佐見を支えていってくれるような、子どものいる世帯が、多く移住してきてくれることを希望している。行政も、いつそうの移住促進に努めていただきたい。

○鈴木教育長

- ・教育委員会の私どもとしては、本町の教育に魅力を抱いて移住してくれる人が増えるように努力したい。

次回は、施設一体型小・中学校の設計が固まってきた段階で、新しくできる校舎の様子や機能、そこで展開する教育活動などの計画について、ご説明に伺いたいと思う。引き続き佐見地域の皆さん方のご協力をたまわりながら、子どもたちによりよい教育環境を提供するため、取り組んでいきたいと考えているので、よろしくお願いしたい。

(20:45 閉会)